ner 同様の差があるか.

答：渡辺克司（九州大学　放射線科）

シンチカメラで観察した場合でも ^{99m}Tc の方がよいことはすでに発表してあります.

質問：有水　昇（千葉大学　放射線科）

内科的な肝疾患の場合に ^{198}Au の肝スキャンでは脾，骨髄の出現は重要な情報を提供すると思います. ^{99m}Tc の場合に脾は必ず出現するとすれば，その点では ^{198}Au の方が有利と思いますがいかがでしょうか.

答：渡辺克司（九州大場　放射線科）

脾の出現の有無に関しては病的意義が見出されません. したがって，^{198}Au コロイドによる肝シンチグラムに慣れた内科の人には従来通りを行ない，space occupying lesion の検出を目的として外科系の患者の場合には ^{99m}Tc コロイドを用いています. しかし読む人が慣れればいずれでも良いかと思われます.

質問：尾関已一郎（久留米大学　放射線科）

1）^{113m}In にての脾像の出現はいかなる程度ですか.

2）^{99m}Tc による脾臓の出現状況と肝障害の程度との間になんらかの相関は考えられませんか.

答：渡辺克司（九州大学　放射線科）

1）正常例では，^{113m}In では脾の出現はありません.

2）^{99m}Tc による脾の出現は肝障害の程度と無関係で，脾の大きさとの相関は考えられますので今後検討したいと思います.

10. 原発性肝腫瘍手術前後の肝シンチグラムによる経過観察

武田　儀之　渡辺　克司　稲倉　正孝
（九州大学　放射線科）

近年における手術療法等の発達により，原発性肝癌，特に小児の原発性肝癌のあるものは手術により，根治可能となってきている.

手術前の検査法として，腫瘍の範囲を明らかにし，手術の適応を決定するのに，肝シンチグラフィーは有力な検査法であり，また，術後における再発や，肝の再生状況の観察にも有用な検査法である. 肝シンチグラフィーによって，原発性肝腫瘍切除後の経過を観察することができた3症例について報告する.

症例1は，1歳9カ月の女児の Hepatoma で，術前および術後1カ月，4カ月，11カ月，14カ月，24カ月に肝シンチグラフィーを行なった. この症例は，現在術後3年になるが，なお健在で肝シンチグラム上でも順調な経過を示し，残遺肝も次第に大きくなってきている. 症例2は，7歳の男児の Hepatoma で，術前および術後1カ月，2カ月，3カ月に肝シンチグラフィーを行なった. この症例は，肝シンチグラム上術後2カ月ではっきりした再発を認め，術後3カ月で死亡した. 症例3は9歳の男児の Hemangiosareoma で，術前および術後3カ月に肝シンチグラフィーを行なった. この症例は，現在術後5カ月になるが，肝シンチグラム上，再発を認めず，順調な経過を示している.

質問：中川昌壮（熊本大学　第三内科）

術後，肝シンチグラムによる脾の出現について

答：武田儀之（九州大学　放射線科）

症例2で脾と思われる像を認めております. その他の症例では認めておりません.

追加：中川昌壮（熊本大学　第三内科）

1968年第7回日本核医学総会で症例報告したものですが，われわれの症例では右葉全剔後3カ月ぐらいして脾像が出現します. これは肝右葉全剔という侵襲のため，門脈系の血流異常によるものと考えました. しかし肝の再生がすすむと反対に脾像は消失する，ということを経験しております. 先生のお示しの3症例では如何でしたでしょうか.

11. 肝癌シンチグラムの統計的観察

広田　嘉久　吉井　弘文　石神　誥一
石原　悦子　市原　美宏
（熊本大学　放射線科）

当教室において過去2年間肝スキャンを行なった600例中剖検，手術で確認し得た原発性肝癌34例，転移性肝癌65例について種々の統計的検討を加えた. 年齢的には50歳代が多く，男女比は原発性肝癌，転移性肝癌ともに男に多く認められた. シンチグラム上の space occupying lesion は原発性肝癌では16：1で右葉に多く認められ，転移性肝癌においても30：11で右葉に多く認められた. 肝機能検査との関係では原発性肝癌にアルカリフオファターゼ GOT の異常値を示す率が多く，転移性肝癌においては原発性ほどではないが，アルカリフオスファターゼ，GOT，GPT，γG に異常値を示す率が多くあった. 脾影出現度は原発性肝癌で50%，転移性肝癌においては34%であった.

質問：中川昌壮（熊本大学　第三内科）

Presented by Medical*Online